こどもとスポーツ教育の未来

国士舘大学体育学部教授
池田　延行

プロフィール
静岡県浜松市出身。1973年東京教育大学体育学部卒業。同大学院体育学研究科を修了後、岡山大学教育学部助教授、文部省体育局体育課教科調査官・体育官、東京学芸大学教授を経て現在に至る。著書（共著）に「小学校・新しい体育の考え方・進め方」「こども・せんせい・がっこう」「指導者のための体育・スポーツ行政」等。

皆さん、こんにちは。体育学部の池田です。私は、国士舘大学にお世話になりまして、やっと２年が終わろうとしているところです。体育学部が50周年を迎えたということは、大変な歴史と伝統があると感じております。

また、今日行われております学術フォーラムは、４月から立ち上がります「こどもスポーツ教育学科」にとりましても、大変意味深い会となりました。その新しい学科に携わる者の一人として、このフォーラムの開催をありがたく思うのと同時に改めて身の引き締まる思いがしております。

私の本題に入りたいところですが、一つだけ前振りをさせていただきたいと思います。たくさんの楽しみを持って、このフォーラムにやって参りました。その一つが、今コーディネートをしていただいております島村先生であります。私にとりましては、「島村先生」と言いますと、高校野球、甲子園の名アナウンサーとしての島村アナウンサーのイメージが大変強いのです。若い学生は、もしかしたら知らないかもしれませんね。もう一人、解説者として池西増夫さんという方がおられました。島村アナウンサーと池西増夫さんとの甲子園での実況中継を何回聞いたことでしょうか。大変な名調子を楽しませていただきました。その島村さんと一緒に仕事ができることをとても嬉しく思っております。

さて、今ご紹介いただきましたように、私は小学校での体育の授業づくりですとか、先生との関わりを仕事にしておりますので、以下のようなことを話題提供させていただければと思っております。

まずは、今、小学校はどうなっているのか、そして学習指導要領というものが、どのように変わってきたのか、そこで体育はどんな役割があるのか、ということをお話ししたいと思います。また、体育を一生懸命がんばると学校は良くなるのかどうなのかという話も入れたいと思います。最後に、「こどもスポーツ教育学科」へ入ってくる若い学生たちが、こんな力をつけてほしい、というお話も、してみたいと思います。

まず今、小学校はどうなっているかということです。公立学校の例ですが、小学校というのは、全国で23,000校ぐらいあります。皆さん郵便局をご存知だと思いますが、おおよそ郵便局と同じ数です。小学校が一つあると郵便局が一つあるという感じです。

そして、こどもたちが、おおよそ700万人います。また、小学校には先生が約42万人います。

全国に23,000の支店があって、働いている人が42万人。お客さんが700万人です。こういう企業やお店を想像すると、とても大きな組織ですよね。小学校というのは、こんなに大きな規模、組織なのだということを覚えておいていただきたいと思います。

先ほど島村先生が、今朝の新聞の話をされました。ここに「学習指導要領の変遷と比較」という表が出ております。学習指導要領というのは、国が定めた教育課程の基準です。皆さん、朝刊読みましたか？今日、私は朝刊をたくさん買ってまいりました。これは朝日新聞です。こちらにあるのが産経新聞です。私は神奈川に住んでおりますので神奈川新聞も買ってきました。さらに家では読売新聞を読んでおります。倉俣先生の所属している某球団が大好きですので、読売新聞を読んでおります。

全て一面は、「学習指導要領が改訂された」という話です。学習指導要領というのは10年に１回のペースで改訂されます。ちょうど昨日が、その新しい学習指導要領が世の中に出てきた時なのです。これから一ヶ月間、いろいろな人たちの意見を聞いて３月末に告示となります。皆さんも一生懸命読んでもらって、もっとこうした方が良い、ああした方が良いという意見がありましたら、ぜひ文科省にいろいろ意見を言ってください。

表の左は、10年に１回変わる学習指導要領が、今までどんなふうに変わってきたかということが書いてあります。戦後６回ぐらい改訂されました。表の右は、「体育」は、どうなってきたかという表です。よく見てもらうとわかるように、教育全体の変遷と体育というのは、いつもキャッチボールをしながらやってきています。

現在の教育のキーワードは「教育の総合化」と言われているのですが、体育は「心と体を一体としてとらえて」ということをやってまいりました。この平成10年の改訂に私は携わりました。先ほど特別講演をいただいた小林寛道先生も、協力者としてお手伝い願い、いろいろな意見をいただきました。その10年前、教育は「個性化の時代」と言われました。体育は「個に応じた指導の重視」ということをやってきました。このようにいつもキャッチボールをしながら、教育全体と体育が進んできたということです。

先ほど、タイでの竹馬の話がありました。日本の小学校では、竹馬は１年生、２年生、３年生、４年生でやるようになってますので、もう少し実施率が良いかもしれません。竹馬については、ひょっとしたら日本の方が上かなという印象です。

もう一つ、今回の学習指導要領の特徴をお話しします。今回は、総理大臣が教育改革のリーダーシップを執るという珍しいケースです。今度、総理大臣が変わって福田総理になりましたが、「教育再生会議」ということをご存知の方はいると思います。この会議は、文部科学大臣がリーダーシップを執るのではもう治まらないような、教育界にとってかなり難しい事件が続発した結果つくられたと言ってもいいでしょう。

学力低下、いじめによる自殺、教育内容の未履修の問題などのいろいろな課題が出てきて、もう総理大臣のリーダーシップでないとダメだということになったのです。これが今回の特徴です。今回と同じ状況が、1984年、中曽根総理の時の臨時教育審議会の時もあったと言われております。その時もいろいろありまして、教育界を揺るがす事件が起こったということです。今回もそれに匹敵するようなことがあったのだということです。

このように、10年に１回のペースで学習指導要領が変わっていきますが、その中で体育は一体どうなるかという話です。「追い風が吹いている？」とあえて書きましたが、これはクエスチョンでなくて「吹いていますよ」ということです。

一つは小学校の体育の時間数が増えます。年間に90時間だったのが概ね105時間になります。週に３回は、やりましょうということです。ただし高学年は90時間のままです。この体育の時間の増加は、こどもたちに大歓迎されると思います。こどもたちは、「どの教科が好きですか？」と聞

いた時に、間違いなく体育が一番なのです。どんな調査や研究をしても、体育がこどもたちは一番好きです。こどもたちにとって大歓迎されるでしょう。

そして二つ目です。教育再生会議では、「体育は専科教員を配置してください」という提言もありました。算数や理科と一緒ですね。やっぱり小学校は大切ですから、「ちゃんと指導できる先生を採ってください」という提言でもあります。

それからもう一つは、「学校教育全体で体育をやってください」ということも書いてあります。体育は、教育課程の中でしっかり支えられているということです。

私は、小学校にうかがうと、体育を一生懸命やると、「三つ良いことがありますよ」と話をしております。皆さんは体育が得意な人も多いのできっとわかると思います。

一つ目は、こどもたちが元気になるということです。これは当たり前のことです。先日２月13日はとても寒い日でした。すごい風が吹いてスキー場にいるような天気でした。

東京都内のある小学校で研究発表大会がありました。大人はオーバーコートを着てホカロン持参というような雰囲気でしたが、１年生から６年生のこどもたちは、ほとんどが半袖短パンで授業をやってました。「こどもは風の子」というようなことばは今は死語かなと思いましたがそうではないのですね。適切な指導と機会さえあれば、こどもたちは風の子になれるということを、改めて思いました。こどもたちが元気になります。

二つ目は、こどもたちが仲良くなります。スポーツは、強い子と弱い子を作ったり、相手をやっつけたり、相手のミスに乗ずる、相手の弱いところを突くことがあり、喧嘩するのではないかと思うかもしれませんが、そうではないのです。仲間と一緒に協力することを学び、そして仲間と一緒に成し遂げる意味がわかってくると、こどもたちは仲良くなります。体育はこどもたちを仲良くするのです。

そして三つ目は、先生方の教え方が上手くなります。体育の中でのいろいろな指導法を勉強すると、これが国語や算数や理科や社会などの教科に使えるだろうということです。

このように、学校が体育に取組むと三つ良いことがあります。私は、いろいろな学校にうかがいましたが、必ずこういう成果が見られています。これからも多分そうでしょう。まとめると、体育を一生懸命やると、「生きる力を育む」ということです。

今度新しくできます、「こどもスポーツ教育学科」で学生に身に付けてほしい力とは何かと考えました。一つ目は、教科等の指導のための適切な指導力です。適切ということは、算数、理科、社会、音楽、図画工作、総合学習などいろいろありますから、まずこれは人並みにやりましょうということです。

二つ目は、こどもや同僚や保護者とのコミュニケーションをしっかり取れるということです。仲良くする力が大切です。そして元気な体とタフな気持ちです。これは大丈夫でしょう。これをまずしっかり身に付けることです。プラスアルファとして、体育やスポーツの高い専門性をもつことです。体育の得意な先生になるということです。

先ほど言いましたように、こどもたちは体育の授業を一番楽しみにしています。そこで素晴らしい腕前を発揮してほしいのです。たとえば、高い専門性というのはうまく教えられるということでもあります。よい示範ができるということもありますね。若い先生は素晴らしい示範を見せてほしいと思います。私は陸上をやっていましたので、例えば「今度来た若い先生は、カールルイスの弟のような先生だ」とこどもたちに言われるようになってほしいのです。

先ほど島村先生が「一つだけ覚えて帰ってほしい」と言われた。一つだけ私が言うとすると、「こどもたちが期待している体育の授業の中で、君たちの専門性を思い切って発揮してごらん。こどもも学校も先生も待ってるよ」このことをぜひ、私

は「こどもスポーツ教育学科」の新しい入学生に伝えたいと思います。また、今日参加している学生さんの多くは彼らの先輩になりますので、その素晴らしい力をぜひ後押ししてほしいと思っております。

最後になります。私も体育の道を歩んだ男です。この後、倉俣さんや、それから神尾さんからスポーツの素晴らしさをいっぱい話してくれると思います。私の知ってる範囲でも、スポーツについて素晴らしい話をした人がいっぱいいます。

たとえば、元大リーガーの長谷川滋利さんは、アジャストメントという素敵な素晴らしさを話してくれました。ここに「アジャストメント」という本があります。とても素晴らしい提言でした。また、最近、なるほどと思ったのはイチロー選手のこの言葉です。「スポーツは、まだ見たことのない自分と出会うためにあるんだよ。」皆さん、意味がわかりますか？

これは、神奈川県の高等学校で女子サッカーをやっている全日本クラスの女の子が、怪我をしてしまった時のことです。苦しいリハビリを一生懸命やっているのですが、その時に毎日、イチロー選手の言っているこの言葉を机の前に置いて、励みに頑張ったと言うのです。「スポーツは、まだ見たことのない自分に出会うためにある。」そうだ頑張ろうと、この神奈川の女子高生は励まされたと思います。

スポーツには、こうした素晴らしい、人を勇気付け支える力があるということですね。そんなことも「こどもスポーツ教育学科」の中で一緒に勉強していければと思っております。私は長年、小学校で体育の授業づくりをやっていました。とても素晴らしい領域で、面白いことがいっぱいあります。先輩になる皆さんもぜひ、今度入ってくる若い「こどもスポーツ教育学科」の新入生を励まし、一緒に勉強してほしいと思います。体育は素晴らしい。それを皆で作っていってほしいと思います。以上で、私の話題提供を終わりにします。